

[ほろよい手帖] 月刊たる TARU 30th anniversary

TARU 樽

10

October
2011
No. 348
390yen

The International WINE, BEER, SAKE, SPIRITS, and LIQUEUR Magazine - TARU

●特集 ベラオス・ トナム ほろ酔い紀行

NTT DoCoMo iモード公式サイト
menu → グルメ生活情報 → たる酒百科

iモード 世界のお酒情報検索サイト
たる・酒百科



[巻頭言] 食道楽 酒道楽
玉村豊男

また夢になるといけねえ
—酒が癡る亡き落語家の半生史

春風亭柳朝の巻(上) — 矢野誠一

さんしがいるのに
いちにの会
—桂三枝師匠を囲む会

酒の家系図 — 石原良純

灘五郷の8社統一ブランド
『灘の生一本』発売

酒どころ灘から、新しいプロジェクトが立ち上がり、新しいコンセプトの酒が誕生した。日本酒の日である10月1日に『大関』『菊正宗』『剣菱』『櫻正宗』『沢の鶴』『白鹿』『日本盛』『白鶴』の8社が発売する、統一ブランド『灘の生一本』だ。

大昔から灘で造られた上等な酒の代名詞として親しまれてきた『灘の生一本』。そんな灘酒をはじめ日本酒を研究している酒造技術者グループ“灘酒研究会”が、日本酒復興を目的に立ち上げたプロジェクトが、表現を統一すること。特定名称や原産地呼称などが使われる様になって久しいが、中味の表現の統一というのが無かったのが現状だ。各社がそれぞれの軸で表現し、“辛口”や“甘口”の基準もまちまちで愛飲家の誤解を生む事もあった。それらの軸を決め、統一することで灘酒の復権を目指す。ラベルには同会の酒質審査委員会が審査した適切であると認めた表現を記載し、「推奨」と大きく描かれた認定マークが印刷されている。同じ基準で表すことで、各社の個性が際立った。この新しい『灘の生一本』が未来の日本酒の基軸となる日は遠くないかもしれない。

『灘の生一本』(純米酒)

10月1日8社一斉発売

各720ml・953円～1429円



今宵も一杯

友田晶子

季節を感じ、旬の素材と味わえば、お酒はもっと美味しくなる。春、夏、秋、冬それぞれに著者が美味しいお酒を紹介する。読んでみると、飲みたくなる100杯が登場。さあ、今夜もお家で、外で「今宵も一杯!」と乾杯しよう。雑誌『Pen』に連載したエッセイをまとめている。

■阪急コミュニケーションズ 1785円

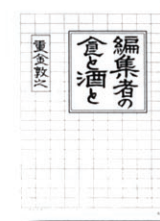


しょーもない、コキ

眉村卓

気がついたら「還暦」が10年も前のことになっている。「古稀」を迎えたベテランSF作家が、現代では珍しくなくなったといえ長命に感謝しつつ、だからといって特段変わらない日常を“しょーもないコキ”と綴ったおもしろショートエッセイ集。

■出版芸術社 1365円



編集者の食と酒と

重金敦之

『編集者の仕事』、『文士行きつけの『うまい店』』など、作家(寄稿家)との距離をどう測るか、著者自身の体験をもとに編集者の姿が描き出された。編集者を目指す人は是非ともおすすめ。そうでなくとも読み終えるころには、興味がわいて、編集者になりたくなる一冊。

■左右社 1890円

次世代にツケを回すこと

東日本大震災から半年、今度は奈良、和歌山を、台風12号による大雨が襲い甚大な被害が及んだ。日本の国土がこれだけ大規模に痛めつけられたのは戦争以来だろう。東北の復興、そして紀伊半島の復興には一体どれくらいの時間がかかるのだろう。

その財源となるべき復興債であるが、どうやら政府(財務省)はその償還期間を5～10年と、可能な限り短期間にする目算らしい。つまり、復興にかかるお金は、孫子の代にツケ回しするのではなく、少々無理をしても、我々の代で返してしまおう、ということである。

なぜ、孫子の代にツケを回してはいけないのだろうか? 平時の国債であれば“借りたものは、なるべく早く返しましょう”という論理は通用するが、我々が直面しているのは、数百年、数千

年に一度の大災害なのである。こんな経済状況で、少々の“無理”(つまり増税であろうか)をすることが、どれほどの痛手となることか。下手をすると、日本の経済は、少々の“無理”のために、再起不能となってしまうかもしれないのである。ここは、危険を冒して“無理”をするよりも、50～100年ほどの長いスパンでゆっくりと償還していくべきではないか。

大地震、大津波、原発事故、大雨、土砂災害…。2011年は、日本の歴史に永遠に刻まれる大災害の年である。この年に、日本で起こった出来事は、孫子の代、そしてそれ以降も、決して忘れてはいけない。そして、次世代の人々が、親の代からツケ回された借金を負うことで、今年の大災害がいかなるものであったのかを、身をもって知ることができるだろう。